

Dr.'s REPORT

RF SYSTEM lab.

ドクターズ・レポート | 「デジゲンNAOMI」をお使いのドクターによる
製品やサービスに関する生レポートです。

ある日、アールエフという聞きなれない会社からの ダイレクトメールが届いた。

内科のクリニックにおいてX線装置は必要だが、私のクリニックではそれほど頻繁に使用する状態ではない。それでも現像機に関わる費用はかかってしまう。写真を撮らないのに費用だけがかかるのはどうしたものかと常日頃考えていた。

現像機を使用しないCRシステムというのがあると聞き、業者に見積もりを依頼してみた。しかし高価であきらめた。

そんなある日、アールエフという聞きなれない会社からのダイレクトメールが届いた。「デジタルX線CCDセンサーNAOMI」…ナオミ?。怪しげな名前のついた機械が載っていた。どういうものかよくわからずそのまま放っておいたが、なにか気になり捨てられなかった。

「私の探していたのはこれだ」と思った。

その後、何ヶ月か毎にダイレクトメールが届く。それを見ているうちに、私の探していたのはこれだと思った。…しかしなかなか踏ん切りがつかなかった。

そうしているうちにかなりの月日が経ってしまった。現像機はどんどん劣化していき、業者にオーバーホールが必要だと言われた。ここで心は決まった。

「導入するなら今しかない」妻と確認し合った。

看護師の資格を持つ妻と東京へ飛ぶ。駅に着くとすぐアールエフのショールームへ向かった。実物を見て、モニターに映し出された画像を見る。今までと変わらない、いや、むしろこちらの方が勝っていると思った。

舞い上がっていた気持ちを鎮めるために、その日はいったんホテルに戻る。夜、もう一度カタログを見ながら妻と話し合い、導入するなら今しかないと確認し合った。翌日、開店時間に合わせて、再びショールームへ向かった。システムの内容を確認して設置をお願いした。

説明を開始するまで1分足らず。 なんという速さだろう。

使用を始めて1ヵ月が過ぎた。画像の質もさることながら、撮影から患者さんへの説明までに要する時間の短さに驚いている。診察室で「X線検査をしましょう」と言ってから撮影するまで5分足らず。

今月のレポート医院

すごうクリニック様
(青森県)



撮影が終わって、そのまま患者さんと診察室に戻り、端末の電源を入れ説明を開始するまで1分足らず。なんという速さだろう。

現像に関わる費用はすべてかからなくなった。NAOMIとコンピューターやモニターを動かすための電気代だけだ。撮影するまでの時間がかからないので、使わないときは電源を入れておく必要はない。スタッフの手間も激減である。

私は今開業される人がうらやましい。 最初からNAOMIを導入できるのだから。

このように私のクリニックにおけるX線撮影環境は一変した。私は今開業される人がうらやましい。最初からNAOMIを導入できるのだから。

2007
09
vol.09

「写真を撮らないのに、
費用だけがかかるのはどうしたものか」と
常日頃考えていた。そんなある日…。